

Daily Report (=%)

~FOMCの結果について~

概要

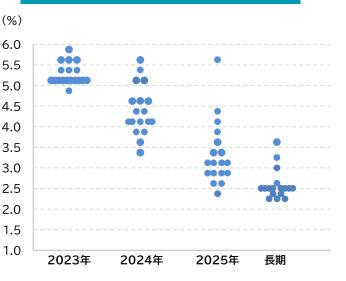
FRB(米連邦準備制度理事会)は、3月21-22日に開いたFOMC(連邦公開市場委員会)で、フェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を0.25%引き上げ4.75-5.00%としました。今回の利上げは全会一致での決定となり、9会合連続の利上げとなりました。ただし、今後に関しては、複数の米銀の経営破綻を受けて金融市場が混乱する中、利上げが近くいったん停止される可能性が示唆されました。

声明文では、労働市場の判断を上方修正し、インフレ水準に関して依然高い水準にあるとしたものの、表現については前回の「利上げ継続が適切である」から、「委員会は2%の目標達成のために金融政策においていくらかの追加引締めが適切となるかもしれないと予想する」に修正し、必ずしも利上げを行わない可能性が残されました。また、ロシア・ウクライナ関連の文言が削除された代わりに、一連の金融不安について言及されました。同時に、「米国の金融システムは堅調で柔軟性がある」との見通しが示され、パウエル議長は記者会見で、金融システムを健全に保つためにあらゆる手段を用いる用意があると表明しました。

図表1 FOMC参加者の経済見通し (中央値ベース)

	2023年	2024年	2025年	長期見通し
GDP成長率	0.4%	1.2%	1.9%	1.8%
(前回12月)	0.5%	1.6%	1.8%	1.8%
失業率	4.5%	4.6%	4.6%	4.0%
(前回12月)	4.6%	4.6%	4.5%	4.0%
PCEデフレータ	3.3%	2.5%	2.1%	2.0%
(前回12月)	3.1%	2.5%	2.1%	2.0%
コアPCEデフレータ	3.6%	2.6%	2.1%	-
(前回12月)	3.5%	2.5%	2.1%	-
FFレート(中央値)	5.1%	4.3%	3.1%	2.5%
(前回12月)	5.1%	4.1%	3.1%	2.5%

図表2 FOMC参加者のFF金利予測 (ドットチャート)



出所:FRB

出所:FRBより弊社作成

Daily Report(号外)

市場の反応

FOMCの結果を受けて、米国市場では株安・金利低下、円高ドル安の展開となりました。主要株価3指数は、予想通りの利上げ決定を受けて一時上昇しましたが、パウエル議長が必要に応じて利上げを継続すると発言したことなどから下落に転じ、NYダウは前日比530ドル安(同▲1.6%)の32,030ドルで引けました。一方、債券市場では利上げ打ち止めの可能性が焦点となり、10年債利回りは前日比0.18%低い3.43%まで低下し、外国為替市場でも米国債利回りの低下につられ、ドル円は前日の132円台半ばから131円台半ばまで円高ドル安が進行しました。なお、同日にイエレン米財務長官が、「全面的な」預金保険の提供を検討しないと発言したことも、株安・金利低下・円高ドル安の進行に寄与したと考えられます。





評価及び今後の見通し

FRBは、金融システムは健全としながらも、過去数週間に起きた金融不安が家計や企業の与信環境に圧力を与えることを警戒しており、利上げと同等以上の効果がある可能性を意識しています。このため、今後はデータ次第としながらも、今回のFOMCでは利上げ停止の可能性が示されました。これを受けて、市場は年半ばにも利下げに転じることを期待し始めましたが、FRBによる金利予想のピークは概ね変更なしとなっており、ドットチャートでも年内の利下げを予想しているメンバーはおらず、市場予想とFRBの乖離が再び拡大しています。

今後は、中小銀行を中心とした規制強化が進み、家計や企業の与信環境がタイト化することが予想されます。このため、雇用やインフレなどの経済指標に加え、与信環境の引き締まり度合いが、 今後の金融政策に影響を与えると考えられます。

株式市場の見通しとしては、FRBの金融政策の姿勢や欧米の金融システムに関する不透明感などを背景に、上値の重い展開を想定しています。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント		
4/9	日銀新総裁に植田和男氏が就任(予定)		
4/27-28	日銀金融政策決定会合		
5/2-3	FOMC		
5/4	ECB理事会		

出所:Bloomberg